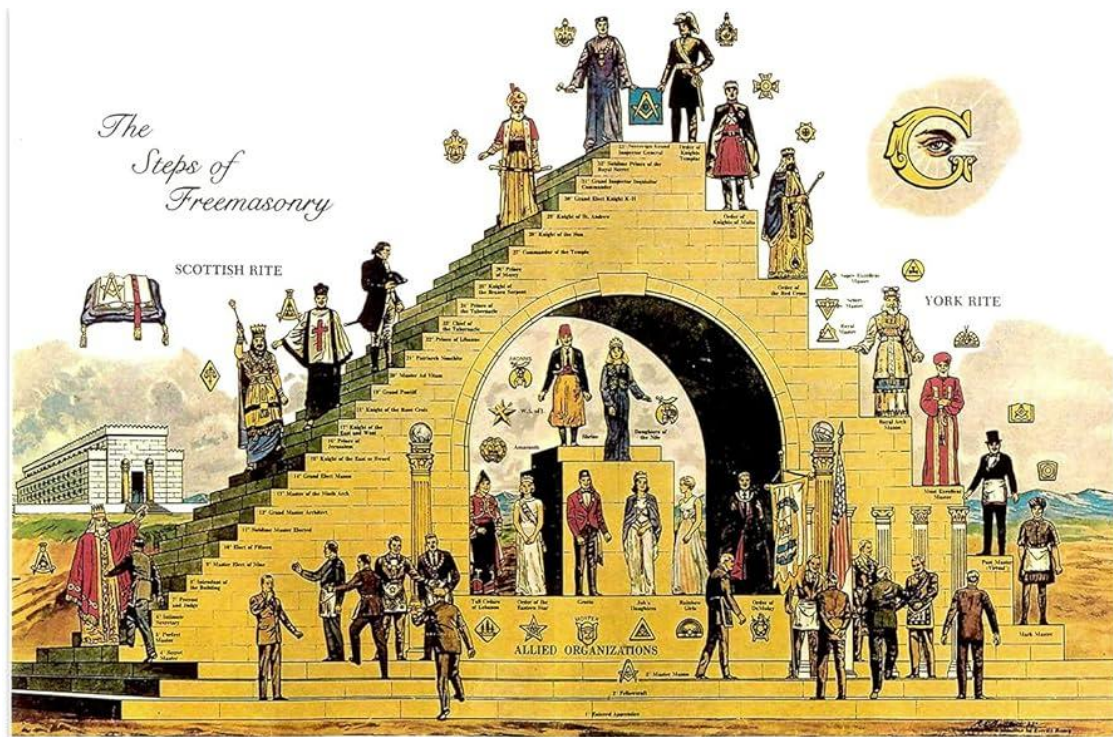


フリーメイソンが完全に暴露、隠れた権力が明るみに

<http://stateofthenation.co/?p=197265>

SOTN

November 27, 2023



SOTN 編集者ノート：次のビデオによる暴露は、見た通りのド派手なものだが、それはフリーメイソン団の全く子供じみて嗤うべき儀式を、明らかにしているからでなく、その扇動運動である「タルムード・ユダヤ教」の背後にある完全に隠された駆動力を、丸裸にしたからである。

実を言えば、この転倒した企てのすべては、旧約聖書の物語にまで深く遡る聖書の倒錯に基いたものである。しかし、この組織に、宗教的なものは実は何もなく、霊的な性質のものでは確実でない。明らかにフリーメイソン団は、子どもじみた（しかし非常に深刻な）、できる限り多くの、容易くマインドコントロールされる、精神年齢の低い者たちを集めようとする試み以外の、何ものでもない。それは、彼らを洗脳して、特にフリーメイソン団の 33 階級にまで到達したリーダーたちの、しばしば危険な汚い仕事を、行うように導くためのものである。

こんな趣旨の古い言葉がある：——

最近5千年プラスの人間の歴史は、こんなふうに要約することができる——
年若い金持ちで権力ある男たちが、若く貧しい男たちを戦争に送り出し、自分たちの利益の確保と増大を図る。

もちろん、次のいくつかのビデオは、まさにそのようなことを例証し、しかもサタン的な復讐を込めてやっていることを、よくわからせるものである。なぜなら、33階級のお偉方たちは、フリーメイソンの犯罪現場でこれをして捕まることは絶対にないが、アメリカの歴史だけでも数えきれないほど例がある。

しかし、ここに特に取り上げねばならない、極めて重要なポイントがある。その理由は、もっと偉大で、最も影響力ある「建国の父たち」のある者たちが、さまざまなフリーメイソン支部に所属していたことによって、インターネット上で無慈悲に悪態をつかれて、告発されているからである。

急所のポイント：ジョージ・ワシントン、ベンジャミン・フランクリン、ポール・リヴィア (Revere)、ジョン・ハンコック、それにジョン・マーシャルは、すべてフリーメイソンだったが、これら偉大な男たちは、イギリスの敵に対するスパイの目的もあったが、特定の支部を隠れ蓑に使う組織していたのは、決して犯罪をごまかして済むようなものではなかった。のみならず、アメリカ革命の時代において設立された、いくつかの特別のフリーメイソン支部 (lodge) は、特別に、国家の独立という大義を促進するために設立された。これは現実には非常に長い、複雑な物語で、これを正しく理解するには、アメリカ共和国の建国の祖父、サン-ジェルマン伯爵の重要は役割を、よく理解してからでなければならない。参考：「**ニュー・アトランティス：時代のマスター・プラン**」 <https://stateofthenation.co/?p=79753>

The New Atlantis を読んだ後で、直観的に明らかになってくるべきことは、アメリカ共和国を組織的に破壊し乗っ取るために、フリーメイソン団の暗黒面を利用したのは、正確に誰だったのか、ということである。そして、いかに、こうした永続的な裏切り者たちが、1913年の「連邦準備銀行法」Federal Reserve Act 以来、制度としてのアメリカを完全にコントロールし、支配するようになったか、ということである。

アメリカの破壊の背後にいる隠れた権力者たち

<https://stateofthenation.co/?p=191912>

SOTN

November 27, 2023

N.B. どうか下に記録された非常に効果的なビデオを見て、笑い出さないでいただきたい。むしろ、一つひとつの言葉を注意深く聞き、すべてが邪悪な意味に満ちていることに気づいていただきたい。

フリーメイソンの秘密の儀式のビデオが、ある隠れた カトリックのジャーナリストによって公表される

独立したカトリックのジャーナリスト Kyle Clifton は、秘密のメイソン儀式と、彼らのカトリック教の嘲弄を公表したことで、何回も死の脅迫を受けている。

Michael Haynes



(<https://www.lifesitenews.com/LifeSiteNews>) ある独立カトリック・ジャーナリストが、秘密のメイソン儀式のフィルムを公表したために、数十回の死の脅迫を受けている。

Clifton は、LifeSiteNews との独占ニュースで、何年も前に、メイソン支部の秘密を暴露する目的で、ある彼らの支部に参加したことがある、と説明した。クリフトンは、この儀式を撮影して以来、カトリック教徒として破門されていると言った。

11月16日、カイル・クリフトンは、この高度に秘密のメイソン儀式に参加しながら撮った、一連のビデオ・クリップを掲載し始めた。これは隠しカメラで撮ったもので、彼のド

キュメントは、ある3階級マスター・メイソンの就任式を記録している。これは Blue Lodge のフリーメイソン団の最高階級の人で、そのメンバー資格が Scottish Rite のような、より特別なコースを卒業する前に選べる性質のものである。彼のビデオの一つは、(前ツイッター) X 上に、7百万回以上閲覧されている。 <https://www.lifesitenews.com/>

クリフトンは LifeSiteNews にこう話している——彼が18歳のとき、どうしてもフリーメイソン団を暴露してやろうと決心した。理由は、それが世界の多くの悪に影響を与えていると信じていたからだ。彼が青年時代に問い続けていたことは、「なぜ世界は、こんなことになっているのだろう？ なぜこの世界にこれほどの墮落腐敗が存在するのだろうか？ こうしたプロパガンダのすべてを、誰が進めているのだろうか？」ということだった。そして彼が研究を進めるほど、「すべての人が、フリーメイソンのことを言っているらしい」とわかってきた。

「私はある地方のフリーメイソン団を訪ねていき、何人かと親しくなり、そこへ加入した。しかし私はそのとき、これは少しやり過ぎたのではないかと考えた」と、クリフトンは言っている。

クリフトンは説明し、自分の密かなジャーナリストの仕事のために、ある程度の意味のあるオンラインの成果を出した後、今年の前半、元の地方支部へ戻り、その儀式の一つをフィルムに収めようと決心した、と言った。

「そこへ戻った後、私は一人の聖職者と話をし、すべてを説明した」と、クリフトンは言った。「私は洗礼を受け、このビデオ撮りのほんの3か月後に、教会の堅信礼を受けた。そして、しかり、私は決して戻らないことにした。それは教会に背くことだ。そして受けねばならない儀式や誓いが続いたが——今、そのすべてを改悛しなければならない。」

クリフトンのビデオには、すさまじく警護された秘密の儀式の証拠が映されている。そこにはニセの処刑の儀式があり、メイソンの宣誓があり、この儀式を通じて、キリスト教が笑い者にされている。

メイソン儀式は、Hiram Abiff の生涯から得た詳細の、語りや演劇の上に築かれている。Hiram は、ソロモン王の神殿の主たる建築者と言われており、メイソン団の物語では、彼の情報を要求する若い石工 (mason) によって殺された。旧約聖書は Hiram と呼ばれるソロモンの神殿で働く技術者を記録している。しかしそこでは、彼を主たる建築者とも言うておらず、彼の逮捕や殺人についても記載がない。

<https://sacred-texts.com/mas/dun/dun04.htm>

<https://drbo.org/chapter/11007.htm>

メイソン儀式は、偽の生き返り儀式や、比喩的に命を与える言葉や握手、また身体の接触点の特定の番号を要求する儀式に、満ちみちている。

参考：「フリーメイソン団の教えの核心について、知る必要のあるすべて」

<https://www.lifesitenews.com/opinion/is-freemasonry-a-religion/>

入場するマスター・メイソンは、非常に重要な合言葉を教えられていて、これはすでに宣誓したマスターたちとの、5つの身体の接触点として必要になる。これは、その受難においてキリストが苦しんだ、5つの主たる傷をもじったものである。

儀式の2人のメンバーは、deacon という言葉で呼ばれ、これはカトリックのハイミサを真似たもので、ある「祭壇」もまた、メイソンによって用いられる。

クリフトンは、彼のビデオの公表が、メイソンたちによる彼に対する、多数の死の脅迫を招いたと言っている。

30件以上の死の脅迫に加えて、彼の家族が「法廷の役人」によって脅迫されており、彼らはメイソンの秘密の暴露を軽くしようとしている。

クリフトンに向けられた脅迫の中には、支部の秘密を暴露したことに対して彼の払う「代価」を警告するメッセージがある。

儀式の間に発せられた誓いの一つとして、メイソンは、万一、支部の秘密を破った場合には、「私の身体は2つに切り裂かれ、内臓が引き出され、焼かれ、灰にならねばならない。その灰は天の4つの風に飛ばされて、人々やメイソンの誰ひとり、永遠に私のことを覚えていないだろう。だから神よ、どうか私がこの約束を果たし、マスター・メイソンとして、神聖な義務を果たすようにお守りください」と唱えなければならない。

LifeSiteNews が以前に公表したように、フリーメイソン団は、キリスト教に対する、そして特にカトリック教会に対する敵意を、長く根付かせてきた。フリーメイソンからカトリックに改宗した David Gray は、かつては Master Mason のサブライム階級として、High Priest of a Royal Arch Chapter の職を拝命した人物だが、彼はこう述べている：――

事の真相は、フリーメイソン団のすべてが同じ原理を共有しており、それは教会滅亡を企む原理だということである。フリーメイソンのある者が、この原理を公的な場所

で公表し、他のフリーメイソンはプライベートな関係集団でのみ、それを公表するということは、偶然あるいは表現の仕方の距離に過ぎず、実質的ものではない。

カトリック教会は、終始一貫して厳しく、カトリック教徒がフリーメイソンに加わることを禁止しており、これは最近の数週でも、ヴァチカンが念を押している。教皇クレメント12世の1739年の教皇広報 *In Eminenti* は、フリーメイソンを非常に深刻な問題と考え、その会員たちは危険にさらされているとして、彼は自立的な破門を、メイソンに参加するカトリック教徒全員に言い渡した。

——数行略——

[訳者 Greatchain 注]

まずこのビデオがすでに、世界中で7百万回以上視聴されたということは、驚くべきことである。これは我々のテーマである、キリスト教や宗教一般（有神論）と、これを敵に回して戦おうとする者たち（戦闘的無神論者）との闘争という構図から、注目すべきである。世界はこれを軸として動いている。わが国ではおそらく、「フリーメイソン」という言葉自体に対する興味があまりないであろう。18歳の青年クリフトンが、「世界はなぜ、こんなことになっているのだろうか？」と疑問を抱き、文字通り命を賭けて、悪の巣窟に潜入するというようなことは、わが国ではまず起こらないであろう。

わが国では、これほどのことが起こっても、人はあまり興奮しないように思える。なぜだろうか？ その理由は感覚の麻痺ではなかろうか？ 人々はおおむね**人間の屑どもに対する感覚**が欠けている。彼らは世界の悪を悪とは認識せず、悪の手先である狂ったメディアとともに、盲目の力の戦いのように見えるのであろう。わが国はほぼ**共産主義天国**だと言ってよい。